

秋季特別展

# 「福田の眼科医」 酒井家10代酒井利亮

富士山図 酒井利亮画・讃

江戸時代  
みよしの文化の中心地  
その人物と生涯とは…

酒井利亮肖像(部分)

令和7年 10月11日[土] - 12月7日[日]

前期 10月11日[土] - 11月9日[日] 後期 11月11日[火] - 12月7日[日]

休館日 月曜日(10月13日、11月3日、11月24日を除く)、10月14日(火)、11月4日(火)、11月25日(火)

開館時間 9:00~16:30



交通のご案内

- 公共交通機関でお越しの場合
- 地下鉄鶴舞線「赤池」駅下車  
名鉄バス豊田市行き……………「三好」バス停下車、徒歩3分
  - 名鉄三河線「豊田市」駅下車  
名鉄バス赤池駅行き……………「三好」バス停下車、徒歩3分
  - 名鉄豊田線「三好ヶ丘」駅下車  
さんさんバス(いいじゃんライン)「29 中部小学校」下車、徒歩3分
- お車でお越しの場合(無料駐車場あり)
- 東名高速道路……………「東名三好」J.C.から約10分

みよし市立歴史民俗資料館

〒470-0224  
愛知県みよし市三好町陣取山44-1  
TEL 0561-34-5000  
FAX 0561-34-5150



入場無料



「国学人物志 初編」(刈谷市中央図書館村上文庫所蔵)



酒井利亮（1823－1888）は、みよし市福田町に所在する酒井家の10代目です。酒井家は、尾張出身で織田信長に仕え、道路の普請などを担当した坂井文助利貞を初代とする家で、尾張藩に仕えたのち福田へ移住、その地で4代目利道が開業したのが医者としての始まりで、7代利正の娘りへは、女医として治療に当たり、9代利承は、医道取締であった錦小路家に入門するなど、代々眼科を専門とした医家として活動しており、10代利亮の代には、年間4,000人を超える患者の診察を行っています。その後の12代利泰は、明治8（1875）年に横浜へ修業に赴き、西洋医療の導入を図り、眼科医としての系譜は、現在まで連綿と続いています。

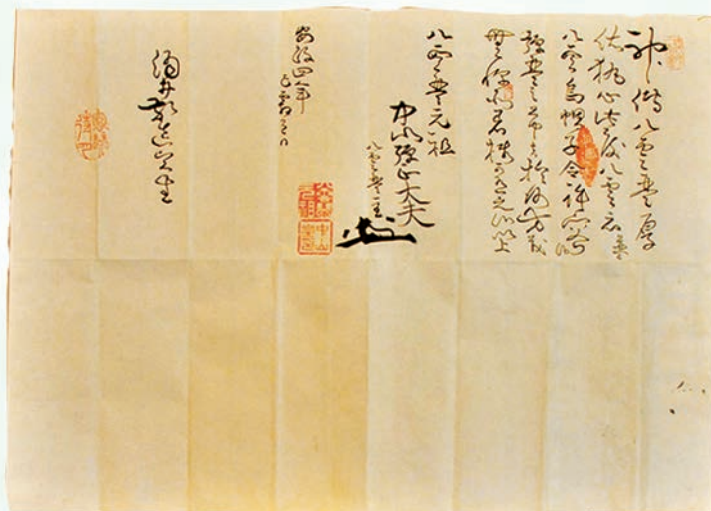
利亮は、文政6（1823）年の生まれ、天保15（1844）年に父利承の死去を受けて医師として開業、専門の眼科にとどまらず、多くの患者の治療を行いました。しかし文久2（1862）年に利亮自身が眼病を患い、満足な医療活動ができなくなり、慶応3（1867）年に家督を息子利之に譲って隠居しました。その後眼病が悪化し、のちに失明、明治21（1888）年に64歳でその生涯を終えました。

利亮の活動は、医師としてのみでなく、地域の知識人として和歌をはじめとする幅広い分野にわたっています。その交流の範囲は広く、京都の公家千種有功、江戸の旗本小林歌城、杳掛新田の儒学者伊藤両村、名古屋の国学者中尾義稲、八雲琴の創始者中山琴主、復古やまと絵画家児島基隆など、三河にとどまらず、各地の人々と交流がありました。

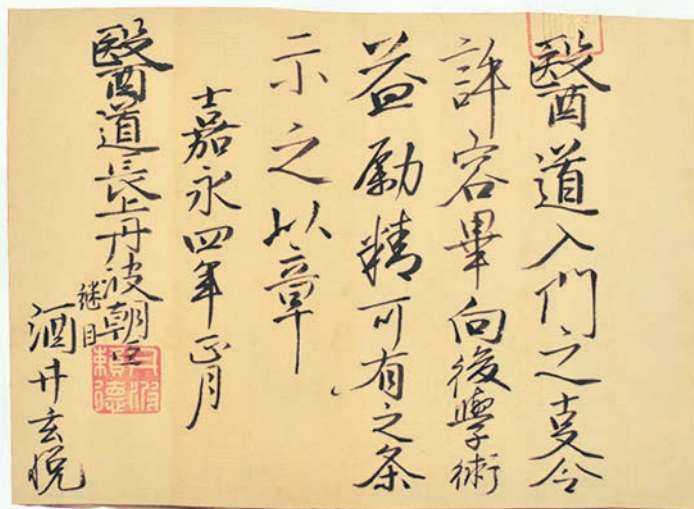
今回の展示会では、酒井利亮について、その生涯を様々な資料から展示紹介します。利亮自身の多彩な活動を通じて、酒井利亮という人物だけでなく、その背後にある、利亮を中心に形成されたこの地域の文化や当時の社会情勢なども知っていただければ幸いです。



酒井家歴代画像 児島基隆画



八雲琴入門許状 中山琴主作・酒井利亮宛 安政4年(1857)



錦小路家入門(継目)許状 錦小路頼徳作・酒井利亮宛 嘉永4年(1851)

担当学芸員による展示解説

前期 10月26日(日)

午後2時から

後期 11月22日(土)

午前10時から

※いずれも予約及び料金は不要



雲廼齡 中山琴主 八雲神社所蔵(暁雨館保管)

みよし市立歴史民俗資料館

〒470-0224 愛知県みよし市三好町陣取山44-1  
TEL 0561-34-5000 FAX 0561-34-5150

